

「家がいいね」 第265号

いせ在宅クリニック 広報月刊紙

2026. 7. 6

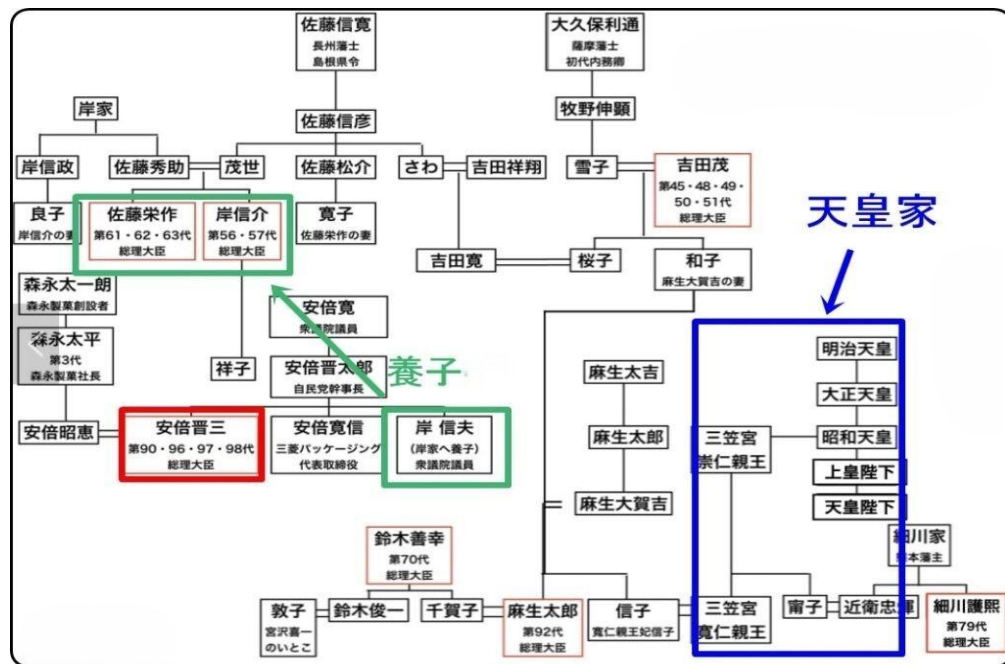


なあ聞けよ、うつむくのを止めて
田中A.O.、お前は、いいやつだ。
これは、ゲーム（試合）なんだ。
自分のせいだと、落ち込むなよ。
おれからも言うよ。
さあ、胸をはれ。
お前の応援者へ、
その顔を見せて
やったらどうだ。

（この目は、そう言ってたかな、と想像）

そうはならない。させない。

「新しい戦前」とタモリが評した流れが、激しくなった気がする。昭和は戦前と戦後で真つ二つ。しかし守旧派（岸信介）が復権して以降、安倍の「戦える国」構想実現がさらに露骨になってきた。なぜ皇室典範改正を急ぐのか人脈図を見て驚く。天皇に近い所に麻生が居るし、歴代の首相は閥閥の如く繋がっていた。現天皇は人として国民統合に生きると表明する。それを政治で動かす対象へと替え「誰でも男であれば」と企むものと思える。



裏側から見る医療

すべて私事になります。
54年前に、父が末期癌で亡くなり、病理解剖も受諾し死亡診断書を見た。なぜか理不尽で納得できない感情が渦巻くままに医療の世界に入り悩んだ。在宅を知り希望が灯った。

この4月家族の病気で

付き添い、今の病院医療を裏から見る経験をした。腹痛嘔吐で、深夜に救急外来へ自家用車で受診。家族は腹部の手術を何度もしており、腸閉塞ではないかと伝え、私が医師とは伏せた。担当医師が痛む場所に、触ったり聴診をしないのには驚いた。的外れの質問をして、ひたすら電子カルテに入力し続け検査が優先された。血液検査を簡単に説明し「帰って下さい」と言われて呆然。当然ながら帰宅後も嘔吐が続き、脱水と腹痛で再受診し入院した時は夜も明けた。もどかしい気持ちだった。担当医師が「私は〇〇」と名乗らぬ違和感も残る。家族の緊急手術は避けられ、連休明けに退院し6月に待機的手術となった。「手術不能もあります」の家族説明には不安も感じた。手術室に向く姿が消え、戻って来るまでは、随分と長く感じた。誠に医療の表裏は分からないものと、改めて思う。

休診のお願い

6月24日、7月29日（水）
毎月最終水曜日は研修で休診。

お盆は、8月13日～16日
休診期間になります。

休日や時間外も、在宅患者
さんには対応しています。



自宅での人生を
最期まで支援します

〒516-0079
三重県伊勢市大世古 2-6-12
電話 0596-20-8104
ファクス 0596-20-8105
メール homecare@kr.tcp-ip.or.jp
<https://isezaitaku.com>

→バックナンバー閲覧可

